

## C V-22 オスプレイの横田基地配備の撤回を求める意見書

10月1日から米空軍の特殊作戦用の垂直離着陸機C V-22 オスプレイ 5機が横田基地に正式配備された。

在日米軍や政府の発表によると、配備数・人員は今後数年間で段階的に10機、約450人体制になるというものである。

日本政府はC V-22 オスプレイの配備について、「日本の防衛とアジア太平洋地域の安定に資する」としている。しかし、オスプレイの最大の任務は、低空で夜間飛行し、敵地に特殊作戦部隊を送り込むことである。まさに米軍の先制攻撃の役割を担う軍用機であり、「日本の防衛」とは無縁であるばかりか、「アジア太平洋地域の安定」にも逆行するものである。

一昨年から今年にかけ、沖縄県の普天間基地に所属する米海兵隊のM V-22 オスプレイが墜落や不時着などの重大事故・トラブルを各地で頻発させ、国民に不安を広げている。横田基地に配備されているC V-22 オスプレイの事故率が米空軍機の中で突出して高くなっている。

横田基地周辺には住宅が密集し、基地の半径3キロメートル以内にある小・中学校は30校を超え、保育園や病院、老人ホームも多数存在しており、事故が起きれば大惨事になることは明らかである。首都東京にある横田基地へのオスプレイ配備が、都民や国民の命と安全を一層脅かすのは明らかである。

よって狛江市議会は政府等に対し、C V-22 オスプレイの横田基地への配備は撤回するように強く求めるものである。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

2018年12月20日

東京都狛江市議会

平成30年12月20日 原案否決